



被災地の妊産婦さんとみなさんをつなぐ  
**東北こそだてレター (被災地の今…)**

2015/09/15 配信 vol.34

～被災地の支援を続けながら、全国の妊娠・出産・子育てをめぐる問題へ～

◆ **支援実績** (2014/8/31 現在)

<支援母子数>

- ・2015年4～8月計 485組
- ・プロジェクト開始より累計 20,719組 (2012/7～2015/8)

<活動場所>

- ・岩手 (大船渡、陸前高田、花巻、釜石、大槌、遠野、宮古、久慈)
- ・宮城 (石巻、東松島、女川、気仙沼、亶理、名取、仙台)
- ・福島 (いわき、相馬、南相馬)
- ・福島 (伊達、二本松、須賀川、白河、郡山、猪苗代町)
- ・新潟 (長岡)
- ・埼玉 (川越)・神奈川 (横浜)・東京 (中野)

<活動内容>

育児相談会／茶話会／ベビーマッサージ／ベビ体操／ママのリフレッシュ体操／親子ピクス／仮設巡回訪問

みなさま、こんにちは。 一般社団法人ジェスパールです。

先週の台風ではたいへんな被害が出てしまいましたね。被害を受けた方に心よりお見舞い申し上げます。皆様は大丈夫でしたでしょうか。

私が毎日通っている川も、今まで見たことがないくらいの水位の高さとなり、本当に驚きました。

さて、ジェスパールが新たに支援する活動の2つを代表の宗からご案内いたします。どちらも現代日本社会の大きな問題でありながら、クローズアップされにくい分野の支援に取り組むための活動です。

被災地での「これから」と「今」、そして「未来」。どうぞ最後まで、ご覧ください。

◆ **クラウドファンディング『「妊娠に悩む女性のための相談支援窓口」を東京で立ち上げたい!』ご協力をお願い**  
(ジェスパール代表 宗祥子)

<https://readyfor.jp/projects/5538>

一般社団法人ジェスパールは、震災以降に設立した団体であり、今までは主に被災地での母子支援のサポートや、被災地から東京へ自主避難してきた妊産婦さんの支援を行うなどの活動を行ってきました。

しかし私たちの本来の目的は、そこに留まるものではありません。『国内の妊産婦をサポートすることにより、女性が安心して出産及び子育てを行えるよう国民全体で支援する世の中の実現と、いつでもいつまでも子どもの笑い声が全国各地に響き渡る社会形成への貢献を目指します。』

被災地であっても、東京であっても、さまざまな理由で困難を抱えている妊産婦さんが存在します。

今回ジェスパールは、「にんしん SOS 東京」と称する、妊娠に悩む女性のための相談支援窓口を立ち上げるための準備を行っています。

現在、全国で1年間に生まれる赤ちゃんは約100万人と言われていています。しかし中絶や、出産直後に虐待によって亡くなる赤ちゃんの数は20万人にも上ると言われています。

もし、自分や身近な人、自分の大切な人が「思いがけない妊娠」をしてしまったら？あなたはどのようにするでしょうか？相談できる人はいるでしょうか？



「思いがけない妊娠」は、関わる人の人生を大きく揺さぶります。

妊娠したことを誰にも打ち明けることも出来ずに、結果として危険な出産をし、新生児を殺してしまう事件が後を絶ちません。

しかし、これは、母親だけの責任なのでしょうか？

子どもができるにあたっては必ず相手もいるはずですが、しかし、身体も心も傷つき、ひどい場合、加害者になってしまうのは常に女性です。

2007年に熊本県の慈恵病院が、少しでも子どもの命を守り、また母親の人生を助けるために「赤ちゃんのゆりかご（赤ちゃんポスト）」を始めました。

慈恵病院では「妊娠中から相談に乗る」「乳児院を経ずに新生児を里親委託する」「特別養子縁組前提の委託」という方針の下に電話相談を受け、結果として7年間で200組を超す特別養子縁組につながりました。

慈恵病院の例のように周囲の支えがあれば、妊婦、子ども、養父母が、それぞれ新しい人生を始められます。

実は赤ちゃんポストの利用者の29%は関東からで、熊本県内の27%よりも多いのです。

この事実を受け、ジェスペールでは、東京でも「思いがけない妊娠」をしたときの相談支援窓口「にんしん SOS 東京」を設立したいと考えました。

主に松が丘助産院に勤務する助産師を中心に、地域で活動する助産師、DVや虐待の現場を経験してきた社会福祉士などがメンバーとなって、現在研修を重ね準備を進めています。

そして、できるだけ多くの方々にこの取り組みを知っていただくために資金を募っています。

<https://readyfor.jp/projects/5538>

この取り組みをお読みになった方は、寄付のご協力をいただけると幸いです。更に一人でも多くの方にこのような取組があることを、お知らせいただけるよう願っています。

一人でも多くの、困っている女性や、赤ちゃんの命を救い、当事者の女性を犯罪者にしないために活動します。どうぞ皆様のご協力をお願いいたします。

○妊娠 SOS 東京 のパンフレットを見る

[http://tohokumama.org/images/main/20150914\\_ninshinsos\\_panf.pdf](http://tohokumama.org/images/main/20150914_ninshinsos_panf.pdf)



- ◆ ジェスペールの活動、妊産婦支援 被災地でも都会でも必要です  
産後ドゥーラは都会でも被災地でも活躍（ジェスペール代表 宗祥子）  
<http://www.doulajapan.com/>

#### ◇◆子育ての悩みは都会でも変わりません

ジェスペールは震災以降、主に、被災地の妊産婦さんの子育て支援を応援してきました。

しかし産後のお母さんの大変さや、都会の中で孤独な子育てをするお母さんたちは、被災地での子育てとは状況は異なりながらも、都会ならではの困難さを抱えています。

人間関係が希薄であったり、実の親子との関係性が悪かったり、夫の帰りが遅く誰にも頼れず孤独な子育てをしていたり、困っている新米のお母さんたちが多くいます。

ジェスペールの代表 宗祥子は東京中野区で助産院を経営し、日々の業務の中で、都会ならではの子育ての困難さを見てきました。



産後のお母さんは出産後ホルモンが大きく変化するために、心身の変化をしっかりと理解したうえでサポートすることが必要です。

しかし、従来までは産後の母親の世話は実家の母親がするものと思われており、行政の支援も全くと言ってよいほどありませんでした。

実際に助産院から退院する出産直後の母親が、実家の手も借りられない、頼みの綱の夫は大企業で産休はやっと3日間だけ、その上専業主婦なので上の2人の子どもは家で面倒を見る、という状況であることを多々目の当たりにしてきました。

#### ◇◆産後直後の母親には特別なケアが必要

産後の母親が求めるものは、母親の心の変化を受けとめること、また具体的な支援としては赤ちゃんのお世話や、料理、掃除洗濯などです。

しかし既存のサポートは、家事ヘルパーとベビーシッターしかなく、産後の母親のニーズを満たすには、いくつものサービスを個別に頼まなければなりません。

この時期は、信頼できる親せきのおばさんのような存在、産後直後の母親の気持ちを理解し、優しく寄り添い、見守る存在が必要なのです。

それこそが産後ドゥーラです。産後ドゥーラは家事も育児も心配事も丸ごと相談できる心強いサポーターなのです。



2012年に一般社団法人ドゥーラ協会 <http://www.doulajapan.com/> を設立し、この10月にはドゥーラ協会が育成認定したドゥーラの数は180名に達しようとしています。

この職業は今まで専業主婦であった方も、その経験を生かし社会の役に立つ仕事であるとして、メディアからも注目されています。

#### ◇◆利用した方からの声

ドゥーラはオールマイティなサポートができるために、全て自費で活用すると、決して安い金額ではありません。

しかし、産後にドゥーラを活用した方からは、非常に高い評価を得ています。

**「昼間、赤ちゃんだけ向き合っていて、育児について自信がなくなったときに、**

**気持ちを聞いてくれて、支えてくれたことで自信が出来た」**

**「赤ちゃんと寝ている間にお料理が何品もできていて、感激した」**

**「健康的な食事を作ってくれるので、母乳も良く出るようになった」**

**「赤ちゃんの沐浴をしてくれて、夫にも教えてもらい、安心できた」**

**「産後、掃除が行き届かず気になっていたら気持ちよく部屋がきれいになり、とても助かった」**

などなど、サポートの質の高さに多くの褒め言葉が聞かれています。

しかし本来は、お金も出すことがなかなか難しい方や、非常に困っている方に届けたいサポートです。

#### ◇◆行政や企業の中でも利用が広がっています。

ドゥーラ協会の働きかけや、メディアで紹介されたことから、8月末からは富士通の福利厚生に採用されることになりました。

また、念願の行政の産後ケア専門家の派遣としても、東京都中野区で産後ドゥーラの派遣が認められ、10月から実施されます。

行政で採用されたことで、今後の波及効果が期待されます。

被災地で妊産婦支援をしてきたことが形となり、国でも予算化され、市区町村の事業として広がってきているのです。この背景には当協会の福島富士子理事の功績が大きいことを付け加えたいと思います。

### ◇◆ジェスペールの支援で被災地から自主避難してきている方の産後をサポート

ジェスペールが、被災地から東京に避難してきている方の支援をしていることは、今までもお伝えしてきました。

ここで改めて今年度に入ってから3名の方が松が丘助産院で、保険金の範囲内で無事にお産をされました。皆さん、近隣にお世話をする方がなく、被災地から実の母親がお手伝いに来て、慣れない東京で短期間しかサポートすることが出来ませんでした。

そして、その上、お一人は赤ちゃんに心臓の疾患が見つかり、手術となったのです。

上のお子さんを抱えて、病院に通うことは本当に困難でした。



こんな時こそ産後ドゥーラの出番です。

皆さまから頂いた寄付は、これらの方々のサポートに今も使わせていただいています。

### ◇◆産後ドゥーラの講座受講にも奨学金を

更に皆さまからいただいた寄付金は、被災した方で産後ケアの活動を志している方が、産後ドゥーラの資格を取るときの奨学金にも使わせていただきました。

間もなく2名の方が認定を取る予定です。

今後も、被災地での産後ケアや、自主避難している方々の産後ケアを、皆様のお力を借りて担いたいと考えております。

被災地域の方に、また被災して職業を探している方々、資格取得後被災地での産後ケアの担い手になってくださる方にこの奨学金制度を継続して支給していく予定です。

日本全国に子どもたちの笑い声が響き渡る世の中を願ってジェスペールの活動を続けてまいります。

### ◆ プロジェクト応援のお願い

ジェスペールの「東北こそだてプロジェクト」は、被災地の母子を支援する助産師の活動を支援しています。

皆様からいただいた温かいご支援は活動の原動力となっています。

被災地の母子を今後も継続してサポートしていくため、妊産婦支援に関するお志を同じくするお知り合いの方がいらっしゃいましたら、ぜひ下記サイトをご紹介ください。

<http://tohokumama.org/donation/>

また、皆様からの励ましのお声も、現地の助産師や被災地で子育て中のお母さん、ジェスペールメンバーの力になります。ご寄付いただく際に励ましのお言葉を添えていただいたり、当メールマガジンへのご感想などをお寄せください。



**発行者： 一般社団法人ジェスペール**

公式ホームページ：<http://tohokumama.org/>

Twitter：<https://twitter.com/tohokumama>

お問い合わせ先：[info@tohokumama.org](mailto:info@tohokumama.org)

Facebook：<http://www.facebook.com/tohokumama>